

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Review)

博士の専攻分野の名称 (Degree)	博士 (マネジメント)	氏名 (Author)	梁 庭昌
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title) 集団に対する情報発信が発信者自身の態度変容に及ぼす影響—クチコミ文脈における Saying-Is-Believing 効果に着目して—			
論文審査担当者 (Dissertation Committee)			
主査 (Committee chair)	准教授	相馬 敏彦	
審査委員 (Committee member)	准教授	徐 恩之	
審査委員 (Committee member)	講師	金 宰煜	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of Dissertation Review)			
1. 概要 さまざまなコミュニケーションツールの普及に伴い、個人の経験を容易に多くの他者と共有することが可能になった。本論文は、複数の他者への情報発信が、発信者自らの態度変化にもたらす可能性を、クチコミ発信の文脈において検討したものである。Saying-Is-Believing (以下 SIB) 効果の枠組みを援用して、複数の他者に実体性を知覚できる場合、対象者への情報の加工や SIB 効果が生じることを実験的に確認し、クチコミ発信による発信者への再帰的影響が生じる条件を明らかにしている。			
2. 論文の構成 本論文は、8つの章から構成される。 第1章では、研究背景として、消費者行動におけるクチコミの影響力の大きさとその特質について説明し、本論文の構成を説明する。 第2章では、クチコミ研究を概観した上で、従来の研究がクチコミの発信が受信者に与える影響に焦点をあてており、発信後に再帰的に発信者の態度に影響する可能性を見逃していると指摘する。 第3章では、社会心理学研究における SIB 効果を用い、クチコミを通じた他者との現実共有と捉えることで、発信することが発信者の態度変容に影響するプロセスを説明可能であると述べられる。ただし、大規模な聴衆への発信状況では、どのような条件下で SIB 効果が生じるのかが十分に解明されていないと指摘する。 第4章では、大規模な聴衆に対する実体性の知覚が SIB 効果の生起条件となり得ることについて、理論的な視点から予測が述べられる。その上で、研究枠組みと仮説が提示される。 第5章では、注意資源の観点から、聴衆に実体性を知覚することが発信者の情報共有意欲を高			

めると予測し検証を行っている。場面想定法を用いた検討の結果、仮説は支持され、実体性の高い聴衆に対しては注意をその聴衆に向けやすく、情報発信しやすいことを明らかにした。

第6章では、実体性を知覚した聴衆への情報発信が、対象者への情報の加工を生じさせやすくして、結果的にSIB効果を生じさせやすくすることを2つの実験研究を通じて示した。実験2では、実験室において、聴衆への知的信頼による調整効果として検証が行われた。実験3では、中国のオンライン・コミュニケーション・ツールを用いて検証が行われた。

第7章では、聴衆の所属性を操作し、聴衆が内集団成員によって構成される場合に、その実体性知覚が発信情報の加工やSIB効果に与える影響について検証した。実験2と3の手続きを拡張することで、聴衆の集団成員性による調整効果を明らかにした。

第8章では、全体を総括し、本研究の学術的含意や実践的意義について考察した。また、今後検討されるべき課題を示した。

3. 論文に対する評価

本研究の主たる学術的含意は、複数の聴衆に対する情報発信が、発信者自身の態度の変化に及ぼす条件を明らかにした点にある。クチコミをめぐる従来の知見は、発信者への再帰的影響に注目することが少なかった。特に、eクチコミに代表されるような大規模な聴衆を想定した研究は見られなかった。その中で、本論文では、集団の実体性が知覚された条件下では、大規模聴衆への発信経験がSIB効果をもたらすことを、複数の実験を通じて一貫して示した。この結果は、消費者行動のみならず世論形成といった政治行動の理解にも適用できうる示唆に富むものであり、広く学術的な意義を有するといえる。

以上、審査の結果、本論文の著者、梁庭昌は博士（マネジメント）の学位を授与される十分な資格があると認められる。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

試験の結果の要旨
(Summary of Comprehensive Examination)

報告番号	広大 第 号	氏名 (Author)	梁 庭昌
試験担当者 (Comprehensive Examination Committee)			
主 査 (Committee chair)		准教授 相馬 敏彦	
審査委員 (Committee member)		准教授 徐 恩之	
審査委員 (Committee member)		講 師 金 宰煜	
試験の結果の要旨 (Summary of Examination Results)			
<p>申請者、梁 庭昌に対し、令和5年8月1日オンラインにて、論文の内容及び関連事項に関する本人の学識等について試験を行った。</p> <p>試験においてはまず、論文全体の概要を申請者が20分程度で報告した。そこでは、予備審査試験において審査委員から指摘のあった事項についての対応状況についても説明がなされた。その結果、いずれの指摘事項に対しても的確に対応しており、論文としての完成度が高いことを確認した。その後、学位取得に相応しい学識の有無を問うため、次の点について試問した。</p> <ul style="list-style-type: none">・クチコミにおける影響の双方向性の定義について・本研究の学術的な貢献の範囲や説明対象の拡張可能性について <p>これらすべての試問に対して、申請者からの的確な回答が得られた。</p> <p>以上の結果、申請者、梁 庭昌は、学位（マネジメント）を受けるに必要な学識を有するものと認めることができ、試験担当者は一致して最終試験に合格と判定した。</p>			

備考 要旨は、400字程度とし、試験の方法も記載すること。